

博物館のまわりには、豊かなみどりが残されています。これから毎月、そこにすむ生きものたちにスポットを当ててご紹介していきます。ちょっと視点を変えてみたり、すこし時間をかけて見たりするだけで、今まで気づかなかった生きものたちの不思議が見えてくるかもしれません。

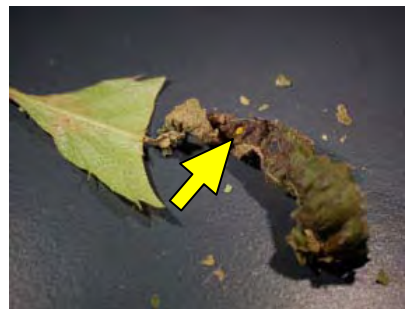
◆葉っぱを丸めたのは誰？

博物館のまわりにあるコナラやクヌギの葉をよく見てみると、葉の先の方がくるくるっと上手に丸められています。さて、誰がこんなことをしたのでしょうか。

答えは、ヒメクロオトシブミという昆虫です。成虫のメスは、口を使って上手に葉を切って丸め、その中に卵を産み付けます。このへんな丸まったものは、ヒメクロオトシブミのゆりかごだったのです！



卵からふ化した幼虫は、このゆりかごの内側を食べて成長し、さなぎになります。さなぎから羽化して成虫になると、ゆりかごを食い破って初めて外の世界に飛び出します。



写真左上) ヒメクロオトシブミの成虫 右上) クヌギの葉先の巣
右下) 巣を分解したところ。矢印の先に長さ 1mm ほどの卵があります。

◆カザグルマが咲きました！

中庭にたくさんの白い大きな花が咲いています。これは、カザグルマというキンポウゲ科のつる植物で、園芸植物として絶大な人気を誇るクレマチスの原種のひとつです。神奈川県ではカザグルマの自生地が減り、今では相模原市内に 4 カ所ほど、横浜市内に 1 カ所知られているのみとなってしまいました。

博物館では、(財) 相模原市みどりの協会や相模原クレマチスの会と協同で、市内の自生地から採取したつるを挿し木にして自生系統の保存を行っています。中庭で咲いている株も、市内の 1 カ所の自生地から採取し、増やしたものです。今年は特にたくさん花芽がつき、5 月初旬からたくさん花が咲きました。



カザグルマの花



エビネの花

◆エビネも咲いています

減りゆく身近な植物の代表と言えるのが、野生ランです。かつては市内のあちらこちらの雑木林や段丘崖の斜面林にあったエビネも、今ではほとんど見られなくなりました。その原因は、炭や薪の原料をとっていた雑木林の手入れがされなくなって林床が暗くなったことと、盗掘と考えられています。

次回のお知らせ

ミニ観察会：6月11日(土) 11時から 新聞 No. 2 も観察会にあわせて発行します。